

存続の危機を救った善意の寄付

ひこさんがわ夢の会による鯉のぼり掲揚
鯉のぼりが年々傷んで数が減少したため、中止が検討されていたひこさんがわ夢の会の鯉のぼり掲揚が、町内の手芸教室「美土里の会」からの寄付で存続の危機が救われました。



手作りの手提げ袋をバザーで販売した売上金6万円が夢の会に寄付され、さらに人形店のご厚意により65匹(約50万円分)を購入。大久保琢磨会長は「感謝の気持ちでいっぱいたくさんの人に見てほしい」と11回目の掲揚を喜びました。

←4月19日の上野橋下河川敷で11回目の掲揚。色鮮やかな100匹が元気に泳ぎました。

↓青空に咲き誇った虎尾桜。満開の時期と好天に恵まれ、絶好のタイミングでした。



福智が誇る自然と歴史を堪能

虎尾桜を心配する世話人会主催の自然観察会・史跡探訪が、4月6日に開かれました。およそ30人が参加し、ヶヶ池跡～福智川～興国寺～虎尾桜の順に訪ね歩きしました。足利尊氏ゆかりの興国寺など見どころ満載の探訪でしたが、クワイマックスはやはり県内最大のエンドヒガン「虎尾桜」。その圧倒的な存在感に、参加者は時を忘れるほど見入っていました。

路上と観光地で上野焼PRに貢献

㈱プラス観光が運行している上野焼PRラッピングバスが好評を得ています。「地域や町に貢献したい」と石山更生社長が自ら、自社バス12台中2台の後部窓ガラスで上野焼



を2月からPR。「目立つし、評判がいい。後続車も追い抜かずに注目しますし、観光地で上野焼について尋ねられます」と石山社長。2台でひと月に延べ500人を乗せ、九州や中国地方の観光地を行き来することから、PR効果も抜群のようです。

←上野焼PRバスと石山社長。同社は昨年11月に市場から上野のバイパス沿いに移転。

↓「よろしくね」。担任のあいさつに真っすぐなまなざしで応える弁城小新1年生。



希望を胸に初めの一歩

町内の小学校5校で4月9日に、中学校3校で4月10日に入学式が行われました。本年度の新1年生は、小学校で246人(上野小23・市場小70・金田小109・弁城小9・伊方小35)中学校で235人(赤池中74・金田中110・方城中51)。弁城小では、新任の井上尚志校長から新1年生が一人ずつ紹介され、しっかりと校長の呼びかけにできていました。

↓世界一の名手といわれる見事な指さばきと息づかいで、美しい音色を会場に響かせるラマさん(中央)



音楽と笑顔は世界共通語

伊方小PTA主催のコンサートが、3月14日に同小体育館で行われました。故郷ネパールの学校を内戦で失ったというラマさんは、故郷の子どもたちのために竹製の横笛「パンスリ」を片手に世界中を飛びまわり、演奏活動でためたお金で学校をつくって運営しています。人なつこい笑顔を浮かべたラマさんは、流ちょうな日本語であいさつし、ドラえもんやオリジナル曲など10曲を演奏。児童たちは、澄んだ音色に睡き入ったり、弾むリズムに手拍子を打ったりと世界の音楽を楽しんでいました。

正攻法に巧さも備わり6勝1敗

福智町出身の藤本悠介力士(阿部松部屋)が、大相撲三月場所(大阪)の幕下で優勝争いを演じました。その前の一月場所は2勝5敗と負け越しましたが、腕を手繰り、押っつけながら前へ出た最後の取組で「何かがつかめた」という藤本力士。三月場所は、持ち味の「一気の攻め」に技をプラスし6連勝の快進撃。大勇武(芝山部屋)との全勝対決では、あと



一步の逆転負けでしたが、今後の飛躍を予感させる春でした。

←地道な稽古や経験を重ね、皮むけた藤本力士。心・技・体を磨き、さらなる上を目指す。

↓平成20年度は区長改選の時期、話し合いには新区長も多数参加しました。



新年度に向けた地区代表の話し合い

福智町行政会長の総会が、4月15日に役場本庁で開催されました。福智町には84行政区(赤池29・金田16・方城39)があり、各区の代表者(区長)によって区長会が組織されています。この日の総会には、過半数を超える64人の区長が出席し、役員増員などの規約改正について話し合われました。なお、新役員は決まり次第お知らせする予定です。